

## 増田彰久写真展

### アジアの近代建築遺産

—上海・青島・北京・大連・長春—

Akihisa Masuda Photo Exhibition

"The Legacy of Modern Architecture in Asia:  
Shanghai, Qingdao, Beijing, Dalian, and Changchun"

2017年1月28日(土)～4月9日(日)

Saturday 28 January to Sunday 9 April 2017

上海・南京・青島・北京・大連・旅順・長春など、中国各地に残る様々な特徴をもつ近代建築。そこには、それぞれの地域がおかれた環境や歴史が凝縮されており、日本・横浜とのつながりも見ることができます。写真家増田彰久氏が30年にわたり撮影してきた写真を通し、中国の近代建築の姿を紹介します。



旧聖ソフィア大聖堂（ハルビン） 増田彰久撮影  
Former Saint Sophia Cathedral, Harbin.  
Photograph by Akihisa Masuda

会場 3階企画展示室

Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般 300円 小・中学生 150円

Admission ¥300 for adults

¥150 for primary and junior high school students

## 横浜ユーラシア文化館

*Yokohama Museum of EurAsian Cultures*

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m. ~ 5:00 p.m. (券売は 4:30 p.m.まで)  
企画展開催中の水曜日は 7:00 p.m.まで開館時間を延長いたします。(券売は 6:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)

年末始年(12月28日～1月3日)他

観覧料 一般 200円、小・中学生 100円  
企画展の観覧料は別に定めます。

毎週土曜日は小・中学生、高校生無料

「障害者手帳」、横浜市の「演ともカード」等をお持ちの方には、入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021

Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m. - 5:00 p.m.  
(Admission until 4:30 p.m.)  
Open until 7:00 p.m. on Wednesday  
during special exhibition  
(Admission until 6:30 p.m.)  
Closed Mondays (except holidays),  
Year-end/New Year's recess (28 Dec. to 3 Jan.)  
Admission ¥200 for adults  
¥100 for primary and junior high school students



<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News

from

EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

アートウォッチング  
Art Watching

2

増田彰久写真展

「アジアの近代建築遺産

—上海・青島・北京・大連・長春—」によせて

Akihisa Masuda Photo Exhibition

"The Legacy of Modern Architecture in Asia:  
Shanghai, Qingdao, Beijing, Dalian, and Changchun"

ギャラリートーク  
Gallery Talk

4

青島の近代建築にドイツを見る

German Legacy in Qingdao's Modern Architecture

蔵品紹介－常設展示室から－

The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

6

青緑釉把手付水瓶

Turquoise Glazed Pitcher with Animal Head

蔵品紹介－新収蔵資料－

The YMEAC Collection: Recent Additions

8

催し物案内  
Exhibitions and Events

9

ミュージアムショップへようこそ!  
Welcome to the Museum Shop!

11

横浜ユーラシア文化館

*Yokohama Museum of EurAsian Cultures*

No. 26

# 増田彰久写真展

## 「アジアの近代建築遺産

### —上海・青島・北京・大連・長春—」によせて

Akihisa Masuda Photo Exhibition

“The Legacy of Modern Architecture in Asia: Shanghai, Qingdao, Beijing, Dalian, and Changchun”

文・写真 増田彰久 Essay and Photos by Akihisa Masuda

中国の南海岸沿いに、広州、開平、貴陽、香港、上海、南京、蘇州、鎮江、青島、天津、北京、大連、旅順、瀋陽、長春、ハルビンと北上し、16都市をめぐり、藤森照信氏らの調査を基礎に、中国の近代建築遺産を取材・撮影をしてきた。今回の写真展では、この中の上海・南京・青島・天津・北京・大連・長春・ハルビンの建築を中心展観する。

中国の歴史は、1840年のアヘン戦争から大きく変化していく。イギリスに敗れた当時の中国・清朝は、南京条約によって上海、広州、廈門(アモイ)などを通商貿易の窓口として開港した。5年後には、イギリスが上海に居留地(租界)を設け、アメリカ、フランスもそれに続き、その一部には日本街もつくられた。租界は次第に整備され、黄埔江沿いの外灘(バンド)には、多様な姿の金融業のビルが建ち並んだ。このようにして、上海は1930年代には極東最大の都市へと発展していったが、その裏側では租界にアヘン窟がはびこり、「魔都・上海」と呼ばれることにもなった。

1898年、青島に租借地権を獲得したドイツは、それまで小さな漁村であったこの地を、貿易、軍事の拠点として土地建設をはじめた。総督官邸をはじめ、警察署、裁判所、教会など主な建物を短期間で建設し、ドイツ建築の都市に変貌させ、ドイツの威信を示した。一方天津では、フランス租界にアール・デコのフランス・クラブや天津百貨公司などが建てられ、その面影を今に伝えている。

1932年、日本が傀儡国家である満州国を建国し、首都を長春に置いて新京と名づけ、満州国の代表を清國最後の皇帝・愛新覚羅溥儀とした。宮殿の前には大通りが設けられ、そこが官庁街となった。國務院、司法部、軍事部、総合法衙などが全て帝冠様式—近代的なビルの頂部に、日本的な瓦屋根を配する折衷様式—で建設された。そして最も北に位置する国境の町、哈爾浜(ハルビン)には帝政ロシア時代の堂々たるロシア正教・聖ソフィア教会があり、中国人も中華パロックで意地を示した天豊源雜貨店や同義慶百貨店などがある。

1949年に中華人民共和国が成立する以前の近代建築は、基本的には中国が建てたものではない。支配者である外国人がやってきて勝手に建てた建築である。しかし、今、その建築を自分たちの文化遺産として直視し、保存していくとする機運が広がってきている。そこには中国人が歴史をとらえる目と心の広さと、したたかさが見て取れる。



旧フランス・クラブ(天津)  
Former French Club, Tianjin.



This photo exhibition will feature architectural legacy from the 19th- and 20th-century China remaining in Shanghai, Nanjing, Qingdao, Tianjin, Beijing, Dalian, Changchun, and Harbin, the cities retaining foreign influence.

The Qing defeated by Britain in the First Opium War (1840) were forced to open treaty ports of Shanghai, Guangzhou, and Xiamen under the terms of Nanjing Treaty. Foreign extraterritorial enclaves of Britain, America, France, and Japan were soon established in Shanghai, which grew into the largest city of the East in the 1930s.

In 1898 Germans acquired a leased territory in Qingdao as a trade and military base and rapidly transformed the small fishing village into a large German-style city. In Tianjin the French in their concession built such Art-Deco architecture as the French Club. In 1932 Japanese founded the puppet state of Manchukuo, where all of the government office buildings in the new capital were topped with Japanese-style tiled roof. Harbin which borders Russia in the north has St. Sophia Cathedral, the former Russian Orthodox Church built by Imperial Russia.

Chinese people today are showing growing interest in the preservation of such modern architecture from the times of foreign concessions predating the founding of the People's Republic of China (1949) as part of their own cultural heritage.

English abstract by Yasuko Fukuhara

上)パーク・ホテル(上海)  
中)祥義号商店(北京)  
下)旧満州国司法部(長春)  
top) Park Hotel, Shanghai.  
center) Xiangyihao Store, Beijing.  
bottom) Former Manchukuo Ministry of Justice, Changchun.

# 青島の近代建築にドイツを見る

German Legacy in Qingdao's Modern Architecture

文 青木祐介 Essay by Yusuke Aoki  
写真 増田彰久 Photos by Akihisa Masuda



青島市街俯瞰 City of Qingdao, Shandong.

増田彰久写真展「アジアの近代建築遺産—上海・青島・北京・大連・長春—」で紹介されている中国の近代建築は、じつに多彩な意匠に彩られているが、それは各都市がたどってきた歴史を反映したものである。そのなかのひとつ、山東半島南岸の膠州湾に位置する青島では、ドイツ統治時代に建設された近代建築が今も数多く残っており、上海などとは異なるドイツ風の街並みを目にすることができる。

ドイツは1898年に青島の租借権を得ると、本格的な都市建設を開始した。艦隊の拠点となるべく膠州湾を整備するとともに、鉄道や幹線道路、上下水道などのインフラや、総督府・諸官庁・学校・教会などの主要な公共建築を一気に建設し、小さな港町だった青島の景観は大きく変貌した。

青島を代表する近代建築のひとつが、信号山の中腹に建つ旧ドイツ総督官邸（現・迎賓館）である。ドイツ総督府の建築部長シュトラッ

サーと技術官ラツアロヴィツの設計により、1907年に完成した。外壁は荒々しい石で縁取られ、壁面は各所でうねり、大小さまざまな屋根が連なって、きわめて彫塑的で変化に富んだ外観である。当時ドイツでは、ユーゲントシュティールと呼ばれる、自然をモチーフに柔らかな曲線を多用する建築様式が流行していた。総督官邸でもその影響が各所でうかがえるが、そのような装飾的要素以上に、ルスティカ（粗石）仕上げによるゴツゴツした外観が、ビクチャレスク（絵画的）な効果を強めている。このルスティカ仕上げは、青島におけるドイツ建築の大きな特徴である。

その後、戦争とともに青島は日本の統治下に入るが（1915～1922、1938～1945）、これらドイツ時代の建築遺産はそのまま転用されて、現在にまで伝えられてきた。

青木祐介（横浜都市発展記念館主任調査研究員）



旧ドイツ総督官邸（現・迎賓館）外観 Exterior, Former Residence of German Governor General.

German architecture from the turn-of-the-century concession times still defines the face of Qingdao, one of the cities photographed by Akihisa Masuda. The German-leased territory of Qingdao became fully equipped with infrastructure, government buildings, schools, and churches in German architectural style, a typical heritage of which is the former official residence of German Governor General constructed in 1907 (the present Guest House). Done in the Jugendstil style then prevalent in Germany, and accentuated by the rusticated masonry—the distinct feature of German architecture in Qingdao—the overall impression it imparts is quite picturesque.

Yusuke Aoki (Chief Researcher, Museum of Yokohama Urban History)

English Abstract by Yasuko Fukuhara



旧ドイツ総督官邸（現・迎賓館）ホール Main Hall, Former Residence of German Governor General.

参考文献  
藤森照信・汪坦監修『全調査・東アジア近代の都市と建築』筑摩書房、1996年

# The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

蔵品紹介 一常設展示室からー

## 青緑釉把手付水瓶

Turquoise Glazed Pitcher with Animal Head

動物の頭がついた、ユニークな形をした水瓶です。何の動物かはわかりませんが、顔には目と角がつき、ちょうど口の部分が注口になっています。把手は幅が広く、指当ての名残と思われる三角形の突起がつき、透かし彫りの装飾が施されています。全体は鮮やかな青緑色の釉薬で覆われ、一部には貫入というひびが見られますが、表面は銀化のために虹色に光りとてもきれいで。

このような陶器が作れるようになったのは、現在のイラン、イラクを中心に東は中央アジア、西はトルコに及ぶ広大な地域を支配したセルジューク朝時代(1038-1194)になってからでした。第23、24号でご紹介したように、このあたりでは陶器を白くみせるために白いスリップ(化粧土)をかけていましたが、この時代に粘土にガラスの粉や石英の粒を混ぜて、胎土全体を白くするという新しい陶土が開発されたのです。成形しやすく、薄く焼いても丈夫という特長があったので、今までなかった瓶や壺のような様々な器形が作られるようになります。そして陶土とともに釉薬の種類も変わり、明るい青や青緑色を出すことが可能になりました。まさにこの時代を代表する陶器の一つです。

当時の人々が、この水瓶に何を入れてどのような時に使っていたのかはわかつていません。

### 参考文献

岡野智彦『煌きのペルシア陶器 11~14世紀の技術革新と復興』中近東文化センター附属博物館、2008年  
三上次男『イスラーム陶器史研究』中央公論美術出版、1990年

竹田多麻子 Tamako Takeda

This pitcher with the head of an animal is unique. It is not clear what type of animal, but there are eyes and two horns on the head, and the mouth part is designed as a spout. It has a wide handle, and we can see a projecting triangle which seems to be the remains of the finger rest. The whole of the pitcher is covered by a glaze of vivid turquoise, and there are small cracks in the surface partially.

Such pottery was probably manufactured in the Seljuk Period (1038-1194). In the Middle East, a new technique of pottery was developed. When quartz crystals and glass powder were put into the clay, the body of the pottery became white. Previously a white slip was applied to it to look like white clay, as I mentioned in the preceding journal (*News from EurAsia* no.23, 24). Also, the change of the clay of the body could make new colors for example, bright blue and turquoise.

Although we know this is a pitcher, it is still unclear what people put in it, in those days.



イラン  
12世紀  
高27 cm  
Iran  
12th Century C.E.  
H. 27 cm

# The YMEAC Collection: Recent Additions

[April 2016 to January 2017]

## 蔵品紹介 ー新収蔵資料ー

2016年4月から2017年1月までにご寄贈頂きました資料を紹介します。ご寄贈いただきましてみなさま、ご寄贈いただくに当たりご協力を賜りましたみなさまに篤く御礼申し上げます。なお、出版物につきましては、点数が多いため本誌では紹介しておりません。整理が終り次第、熟覧に供する出版物はインターネットの目録に掲載し、学習教材として受贈いたしました出版物は、2階展示室内ライブラリーでご利用いただいております。どうぞご活用ください。

※ライブラリーの図書は入れ替えがありますのでご了承ください。

(敬称略)

新興辟雍銘細線式獸帶鏡  
中国 新 1世紀  
Bronze Mirror  
China, Xin dynasty.  
1st century C.E.  
Donated by Hiromi Hayashi



収蔵番号 YMEAC-16-0001~0036

### 青銅鏡等

点 数 36 点

地 域 中国ほか

寄贈者 林裕己

収蔵番号 YMEAC-16-0037~0042

### 土製ランプ

点 数 6 点

地 域 地中海東岸

寄贈者 若林佳布止



土製ランプ  
地中海東岸 4-6世紀  
Oil Lamps  
Eastern Mediterranean  
4th-6th centuries C.E.  
Donated by Kahoru Wakabayashi

## 催し物案内

## Exhibitions & Events

### 企画展 3F

#### 増田彰久写真展 アジアの近代建築遺産

ー上海・青島・北京・大連・長春ー

Akihisa Masuda Photo Exhibition

"The Legacy of Modern Architecture in Asia: Shanghai, Qingdao, Beijing, Dalian, and Changchun"

2017年1月28日(土) ~4月9日(日)

Saturday 28 January to Sunday 9 April 2017

上海・南京・青島・北京・大連・旅順・長春など、中国各地に残る様々な特徴をもつ近代建築。そこには、それぞれの地域がおされた環境や歴史が凝縮されており、日本・横浜とのつながりも見ることができます。写真家増田彰久氏が30年にわたり撮影してきた写真を通じ、中国の近代建築の姿を紹介します。

会 場 3階企画展示室

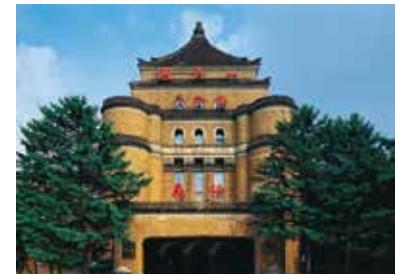
Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般300円 小・中学生150円

Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students



旧張作霖邸・大青樓(瀋陽)  
増田彰久撮影



旧滿州國中央銀行(長春)  
増田彰久撮影

### 関連企画

#### 講演会「中国の近代建築遺産をめぐって」

講演者 藤森照信氏(東京大学名誉教授 江戸東京博物館館長)

増田彰久氏(写真家 増田彰久写真事務所主宰)

日 時 4/8(土) 14:00 ~ 16:00

会 場 情文ホール(横浜情報文化センター 6階)

参加費 1,000円

定 員 200名(事前申込み制、申込み多数の場合は抽選)

※EAハマ発カード会員の方は優先的に受け付けますので会員番号をお書き添え下さい。

### 申込み方法

#### 【往復ハガキ】

申込人数は一通につき2名まで。参加人数、参加者全員の氏名(フリガナ)、住所、電話番号をご記入ください。

宛先:〒231-0021 横浜市中区日本大通12

横浜ユーラシア文化館「増田彰久写真展」講演会係

#### 【ウェブサイト】

アドレス: <http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

入力フォームに必要事項を記入し、送信してください。後日こちらからメールにてご連絡いたします。

申込締切: 3/20(月・祝) 必着

### 作品解説

写真家増田彰久氏による作品解説

講 師 増田彰久氏

日 時 3/4(土)、3/18(土)

各日 14:00 ~ 15:00

参加費 企画展観覧料のみ

### 関連展示

#### 増田彰久写真展「横浜山手 1985」

会 場 当館1階ギャラリー、旧第一玄関

日 時 企画展開催中

観覧料 無料

協 力 (公財) 横浜市緑の協会

### ワークショップ

・紙でできたカメラを、のぞいてみよう!  
作ってみよう!(ピンホールカメラ作り)

・飛び出す近代建築! (ペーパークラフト作り)

ピンホールカメラ作りと、作って楽しいペーパークラフト。

会 場 当館1階図書コーナー

日 時 企画展開催中の土・日・祝日

9:30 ~ 16:30 (受付は16:00まで)

参加費 無料 ※材料はこちらでご用意します。

# 催し物案内

## Exhibitions & Events

### イベント

#### ゲルに集まれ！「スーホの白い馬」の世界へ

Welcome to the Mongolian Ger!

公開期間：2017年2月25日（土）～3月12日（日）

Saturday 25 February to Sunday 12 March 2017

・組立：2/25（土）9:40から

・解体：3/12（日）16:30から

スーホも住んだモンゴルの移動式住居「ゲル」が中庭に登場します！ゲルの中もご覧いただけます。組立、解体にはお客様も参加できますので、どうぞ見学、ご参加下さい。

会 場 当館中庭

観覧料 無料

時 間 9:30～17:00（水曜日は19:00まで）

※組立て・解体作業中はゲルの中はご覧いただけません。

※月曜休館日はゲルもお休み。Closed: Mondays

#### ゲル展示解説

講 師 担当学芸員

日 時 2/25（土）14:00～

2/26（日）、3/5（日）11:00～

各回30分程度

会 場 ゲル

#### スーホの服を着てみよう！

日 時 ゲル公開期間の土・日 9:30～16:30

会 場 ゲル ※変更になる場合があります。

#### モンゴルのおはなし会

読み手 こどりの会、中図書館ボランティア・モックの会

日 時 3/11（土）、12（日） 各日 13:30～14:15

会 場 情文プラザ（横浜情報文化センター1階）

協 力 中図書館

#### 馬頭琴 きける！ひける！演奏会

演 奏 宮原 洋子氏（天馬の会主宰）ほか

日 時 3/11（土）、12（日）

ミニコンサート 14:30～15:15

演奏体験ワークショップ 15:30～16:30

会 場 情文プラザ（横浜情報文化センター1階）

協 力 天馬の会

#### 開館祭 2017 14th Anniversary Events

2017年3月11日（土）、3月12日（日）

Saturday 11 and Sunday 12 March 2017

この2日間は全館無料！モンゴルのおはなし会や演奏会、学芸員による建物ツアーなど楽しいイベントがいっぱいです。

#### 水曜の夜は博物館へ行こう！

企画展開催中の水曜日は午後7時まで開館しています！ ※券売は6時30分まで

ミュージアムショップへようこそ！  
Welcome to the Museum shop

オリジナル  
マスキングテープ  
3種 新登場！

当館オリジナルグッズにマスキングテープが登場します！柄は、当館キャラクターのこぶちゃん、タイ・カレン族の民族衣装、当館の建物などをモチーフにデザインした全3柄です。  
ちょっとしたメモを貼ったり、手帳、ノート、手紙などをかわいく飾ったり、使い方はいろいろ。  
1月中旬に販売開始です。どうぞお楽しみに！

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

モンゴルの帽子をかぶる、当館キャラクターのこぶちゃん。草原にゲル（家）やかわいらしい動物たち。モンゴル好きの方におすすめです。  
幅18mm

当館所蔵のカレン族の民族衣装。  
同じ柄でメモ帳とA5クリアファイルもあります。  
そろえて使ってみるのはいかが。幅15mm

こちらが  
カレン族の民族衣装

Museum of Yokohama Urban History

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

横浜都市発展記念館とのコラボテープ。  
当館の建物をモチーフにした楽しい柄です。  
展示見学の思い出にどうぞ。幅18mm

幅15mm …1個 250円  
幅18mm …1個 280円  
幅30mm …1個 400円  
※価格はすべて税抜き。

市電の方向幕 幅30mm

NAMAMUGI 生麦 HAMAMATSU-TYO 弘明寺 井土ヶ谷 尾上町 桜木町 六角橋 本牧 2 横浜駅

楽しむだモ～

横浜都市発展記念館のマスキングテープも同時販売！